

# MIDI検定2級実技試験実施



平成13年3月13日よりアップル会場をスタートに3月30日まで、東京・大阪・名古屋延べ16日間にわたってMIDI検定2級実技試験が実施され、295名の1次合格者が受験した。合格発表は4月末日の予定。(写真: ホペラシティタワー・アップル本社セメナールー ム48F)

CONTENTS	
● MIDI検定実施報告	
▶ 2級実技の実施報告	i
▶ NAMMビジネスツア <b>ー</b> 4·5	,
▶ 1394プロジェクト	i
▶ すかしプロジェクト 7	
▶ AMEI会員名簿、出版物紹介	i

AMEI NEWS Vol.15 / 2001.4.6 社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発 行:社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9

イトービル4F

TEL. 03-5226-8550 FAX. 03-5226-8549

発 行 人:中田 健

編集 人:福田 誠(広報委員会)編集協力:株式会社ラプラス

ホームページアドレス: http://www.amei.or.jp/



### MIDIを理解し活用できる人材育成のための認定制度

コンピュータミュージックの共通ライセンス

### 「第3回MIDIP與定試験3級」「第2回MIDIP與定試験2級1次筆記」実施結果

催:社団法人音楽電子事業協会 力企業:社団法人音楽電子事業協会 会員各社 力団体:日本シンセサイザー・プログラマー協会 施 日:平成13年1月28日午後1時より(90分間)

### 【「協力校&試験会場」全国80会場】

(東京・関東地区 18校・18会場)

ア行゛ッ次シュージ゛ッかが゛ミー 音響技術専門学校 神奈川情報文化専門学校

神奈川県立神奈川総合学校

菅原学園専門学校デジタルアーツ東京

総合学園ピェマノカデミー東京校

東京工科大学

東京情報ビジネス専門学校

東京スクールオブミュージック専門学校

日本工学院専門学校

日本工学院八王子専門学校

日本電子専門学校

東放学園放送専門学校

ミュージック・カレッジ・メーザー・ハウス

ヤマハ音楽院

代々木アニメーション学院

東京ビジュアルアーツ

新潟ビジネス専門学校

(大阪·関西地区 6校·7会場)

大阪音楽学園キャットンェゾックカレッジ専門学校

(株)JEUGIA

ディプスエンピュータミュージッククラブDEE

職業訓練法人 大阪ビェマノカデミー 神戸電子専門学校 ピッシェル専門学校 大阪 マイドーム 大阪会場-

(東海地区 4校・4会場)

大垣女子短期大学 名古屋音楽大学 名古屋自由学院短期大学 名古屋ビジュアルアーツ

(東北地区2校・2会場)

日本江ル。エタ学園 東北電子計算機専門学校 菅原学園 専門学校デジタルターツ仙台

(九州地区1校・1会場)

専門学校九州ビジュアルアーツ

(北海道地区1校・1会場)

札幌科学技術学園・札幌科学技術専門学校

(広島地区 2 校・ 2 会場)

広島コンピュータ専門学校 広島工業大学専門学校

(島村楽器全国会場45会場)

旭川、札幌、釧路、秋田、八戸、仙台、利府、新潟、長野、松本、水戸、宇都宮、成田、千葉、津田沼、新浦安、大宮、 新所沢、船堀、平井、錦糸町、新宿、八王子、金沢、横浜、本牧、港北、岡崎、名古屋、鈴鹿、和歌山、大津、三宮、 姫路、岡山、米子、広島、松山、高松、小倉、福岡、熊本、大分、佐世保、長崎

### 【第3回MIDI検定3級受験者分析】

・総受験申込者:2145名 ・合格者:1536名(合格率71.6%)

· 受験者平均点: 88.3 (前回82.3)





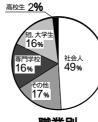




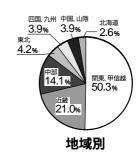
【第2回MIDI検定2級筆記試験受験者分析】

· 総受験申込者: 593名 · 合格者: 240名(合格率40.5%) ・受験者平均点:75.5









一般と団体

職業別

2



### 社団法人音楽電子事業協会・日本シンセサイザーブログラマー協会が実施する・MIDI認定制度 MIDI製作課業の実持対能を認定する

## 「第2回・MIDl検定・



・コンピュータミュージックの共通ライセンスー

「MIDI」の管理・推進は(社)音楽電子事業協会が一元的に行っています。 「MIDI」は(社)音楽電子事業協会の登録商標です

### 「MIDI検定・2級実援機の目的」

発展を続けるマルチメディア社会の中で、文字や映像などと並び、重要な要素の一つに音/音楽があげられます。そしてマル チメディアの音/音楽の中で中心的な役割を果たしているのが、いわゆるMIDI規格です。

MIDI規格は、電子楽器の制御プロトコルとしての活用はもとより、電子音楽のソフトウェア、コンピュータネットワークでや りとりされる音楽データや、通信カラオケの送信データにいたるまで、電子音楽の事実上の標準規格となっています。この様 な状況のなた、MIDIを使った音楽制作の現場では、MIDIに関する知識を持ち、データの制作、編集・監修ができる人材が求 められているのが現状です。

2級検定試験では、この様な音楽制作現場で即戦力として活躍できる人材の育成と認定を行なうものです。認定試験のレベ ルは高度な基準が求められますが、企業職場に音楽制作のプロとして推薦できる人材の認定を目標といたします。

### ------「MIDI検定・2級実技機の実施要網」

◎主 催:社団法人 音楽電子事業協会

協 力:日本シンセサイザー・プログラマー協会

後 援: (会場、機材、ソフト等の協力)

●アップルコンピュータ (株) ● (株) インターネット

●富士通(株)

● (株)オービット・ミューズテクス ●三木楽器 (株)

●カモンミュージック (株) ● (株) ミディア

●ヤマハ (株) ● (株) メガフュージョン

●ローランド (株)

●名古屋自由学院短期大学

◎日時及び場所:東 京 平成13年3月13日、14日、15日、16日&平成13年3月27日、28日、29日、30日

> 大 阪 平成13年3月13日、14日、15日&平成13年3月22日、23日、29日、30日

名古屋 平成13年3月21日

◎受験資格:「MIDI檢定2級筆記試験(第1次試験)」合格者

(筆記試験合格者の2次実技試験受験の有効期限3年間)

◎試験概要:MIDIデータ入力及び編集技能の実技試験

### (実技試験内容)

- ●会場に用意された機材、ソフトを使用してMIDI制作の技能、知識を審査する実技試験。
- ●課題曲スコア (楽譜)、制作規定書を参照し、MIDIデータのシーケンサ入力、修正、編集。
- ●用意されたSMF未完成データの不足部分入力、誤りを修正、規定通りに編集し完成させる。

### (課題曲)

- ●課題曲は16パート以内の楽曲。1曲。
- ●課題曲スコア(楽譜)は事前に発表。(受験者に告知 AMEIホームページに告知)
- ●課題曲MIDI完成データは事前に発表。(AMEIホームページにアップ)
- ●課題曲は何れの会場、日程においても共通。試験内容(課題)は会場、日程で異なる。

### (試験時間) (提出方法)

●試験時間:120分 ●試験終了後データはデスクトップ上の作業フォルダからフロッピーディスクに記録し提出。 (合格通知)

合格発表 平成13年5月1日 (火) 社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) ホームページ上にて発表。 合格通知書と「MIDI検定2級ライセンスカード」(合格証書発行可)を個人宛5月中に発送。

### 「ミュージックメディア・実務/ ウハウ」 -MIDI検定2級実持機の為のガイドブック:発制

発 売 元:社団法人音楽電子事業協会

制作著作:日本シンセサイザープログラマー協会

容:B5版 112P 2級実技試験に必須の実務ノウハウ・コンピュータ、周辺機器、データ、アプリケーション、レ

コーディング等に関する実務ノウハウ

格: \\ \( \pm \) 2000+消費税 (\\ \\ \) 100) 購入方法:協力校&全国有名楽器店

又は直接、社団法人音楽電子事業協会(TEL 03 - 5226-8550)

# 910

### NAMMビジネスツア -

第5回 MIDI規格委員会主催、NAMM2001ビジネスツアーは21名の参加を得て、1月17日から1月23日まで、米国NAMM Winter Marketの視察、MMA (MIDI Manufacturers Association) との会議開催及びMMA総会への参加を目的に催行されました。今年のAMEI/MMA Joint meetingでは主としてAMEI提案のモバイルMIDIに関する規格の、MMAでの承認、及びAMEI 1394プロジェクトからの直前にハワイにて開催された1394TAの報告とMMA側との刷り合せ、などについて討議されました。 またMMA総会ではAMEIからモバイルMIDIに関してのプレゼンテーションを開催し多くのMMAメンバーが熱心に受講されていました。



増改築されたアナハイムコンベンションセンター



NAMM2001ビジネスツアー参加者(成田国際空港会議室にて)

今年で100年目を迎えた2001 NAMM International Music Marketはアナハイムコンベンションセンターの改装工事のため、この3年間ロサンゼルスに会場を移していたが、4年ぶりに改装工事を終えたアナハイムに戻り、1月18日から4日間に渡り開催されました。出展社数 1,263社(前年比+1%)、会場面積52,152  $\mathrm{m}^2$ (前年比+21%)、登録者数65,372名(前年比:バイヤー+16%、ビジター-3%、海外+10%)を記録しました。

### 1. 携帯電話室の目から見たNAMM2001(100<sup>th</sup>. NAMM)所感

(株式会社ツーカーセルラー東京 栗山 洋氏にレポートしてを頂きました)

今回のツアーの第一の目的であるMMA総会後のミーティングにて、AMEI Mobile MIDI WGより「Mobile MIDI ガイドライン」に関するブレゼンテーションを行いました。私はその中で、日本における着信メロディ市場の紹介を担当しました。短い期間に爆発的な拡大と進化(?)を遂げてしまった日本市場の状況や(その中でしたたかにビジネスを進める)日本メーカーの活動に、MMAの皆さんは一応の理解は示しても、文化的、本能的な納得はなかなか難しそうに感じました。これは通信の世界でも同様ですが、「規格」、「標準」というものに対する考え方も微妙に違っているように思います。

当初の予定には入っていなかったのですが、2月に正式オープンした新テーマパーク「ディズニー・カリフォルニア・アドベンチャー」がマスコミや招待客対象のプレオープン中だったので、スケジュールの合間に覗いてきました。文字通り「カリフォルニア」をテーマにしたアトラクションで、3Dシアターから絶叫マシンまで、幅広く取り揃えられています。バグズライフをテーマにした3Dシアターで、登場するキャラクタのギャクに観客が大受けしていたのを見ると、「判官びいき」っていう感覚は米国人にも共通なんでしょうか。また、エンタテイメントの基盤として、観客の共通体験、共通文化(この場合は、カリフォルニアの歴史、文化やディズニーの物語)が大切であるということを再認識しました。

この場をお借りして、事務局の神川さん、WGリーダーの飛河さんを始め、今回のツアーでお世話になった皆様に感謝の言葉を述べたいと思います。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました

### 2. MMAとのMeetingについて



1月19日(金)18時から Joint AMEI/MMA Meeting をAnaheim Marriot Hotelにて開催した。MMAから 8名、AM回から13名が出席。以下のテーマについて遅くまで会議が続いた。
・ XMF Proposal (TSB#162)

- AMEI Mobile MIDI Proposal
- High Speed MIDI for 1394
- Looping in SMF/XMF
- Extention 00-01 to File Reference Sysex Message
- 1394 Report from AMEI
- Report on Ethernet MIDI Issue
- Report on Apple OMS replacement Proposal
- Discuss Completion of AMT
- Discuss DLS-1, DLS-2 Certification
- Review status of documents pending Adaption

### 3. MMAの総会について

MMA定期総会2001が、1月21日(日)9時から、Anaheim Marriot HotelにてMMA総会が開催された。出席者はMMAメンバー約40名とAMEIからのオブザーバー出席者であった。(議事要旨は以下の通り)

- Executive BoardメンバーChairmanのJames Grunkeの司会で9時より総会が開催され、Tom White会長によりMMA及びAMEの活動報告及び今後の計画について説明があった。
- 最初にMMA's Executive Board Memberの選出にあたり、下記理事の理事継続が承認された。 [ Executive Board Member ]

- James Grunke (VM Labs)
- Atan Billias (Yamaha)

· Bob Starr (Beatnik)

- ・Tom White President/CEOが会長として継続が承認された。 ・選出後、Dan Brown(Apple)が5人目の理事として選出された。 ・James GrankeをChairman of the Boardとすることが承認された。
- Technical Standards Board Memberの選出について、下記の 役員が選ばれた
  - · J.Robert Lee (National/Mediamatics)
  - · Rick Cohen (Kurzweil)
  - · Tom Savell (Emu/Creative)
  - · Bennett Sikes (MOTU)
  - · Robert Rampley (Line6)

・Jim Wright (IBM Watson Labs)
・また選出後のミーティングにてTodor Fay (Microsoft)が
7番目の役員として選出された。

・Rick CohenをChairman of the Boardとすることが承認さ

続いて下記の事項についてボーティングが進められた。
・TS BB Item #170, the "00-01" Extension to the File Reference SysEx Message が承認された。
このプロボーザルは、AMEDの承認を得る為、数週間のうちにAMEDに送付される。万一、AMEDから意見等提出される場合は、早急にお願いしたい。TSBB Item #162,の承認がなされた。このアイテムには3つのサブアイテムが含まれている。サブアイテム:



XMF Meta File Format Specification,

2)Type 0 and Type 1 XMF filesの定義。 3)新しいSMF Meta Event ("XMF Patch Type Prefix"の

2)「Spe U and Type I AMIT Inles U 上義。
3) 新しいSMF Meta Event ("XMF Patch Type Prefix"のため)の定義。
これらのプロボーザルも数週間のうちにAMEの承認を得る為、送付される。
TSBB Item #165 (AMEIのMobile MIDIプロボーザル)についての議論された。
関係すると思われる会社の大多数のサボートを得る為に、いくつかの変更が望ましいとの合意にいたった。これにより、TSBB Item #165 の投票の延期が提案され、次期投票は2月21日まで(最長)と期限を限定した。意見、変更の要請があるものは、この期限までに提出するものとする。また、MMAのTech Board は、プロボーザルの英語版に見られるいくつかの不明瞭な点の訂正に取り組むことに合意した。
のプロボーザルについての今後の議論は、これからの数週間、MMAのGeneral Forumでメンバー間のメールのやり取りという形で行われ、AMEIのキーメンバーの参加もお願いする。これにより、AMEIとMMAの間にこの件に関する確かな連絡手段を早急に設定する事が必要である。

が必要である。

### 4. MMAの総会でのAMEプレゼンテーション

昨年に引続き MMA総会後に開催されたスペシャルセッションで、AMEI Mobile MIDIワーキンググループメンバーによるプレゼンテーションを開催しました。まず、飛河和生氏( Mobile MIDI WGリーダー)からの挨拶とプレゼン内容紹介の後、栗山洋氏 ( Mobile MIDI WG )による日本の携帯電話市場についての講演、田中孝浩氏 ( Mobile MIDI WGサブリーダー)による日本の着信メロディーフォーマット等技術的説明、飛河和生氏( Mobile MIDI WGリーダー)からGMLガイドラインの説明、最後に中西正人氏 (著作権ソフト委員会モバイル部会長)から今後の展望と実際のデモンストレーションが行われた。プレゼンターション終了後も多くの質疑応答が続けられました。







5. モバイルMIDI ガイドラインについて (英文名: GENERAL MIDI "LITE" Specification for GM Lite and Guidelines for Use In Mobile Applications)

この提案については、MMA総会にて投票の1ヶ月延期が提案されましたが、2月21日投票の結果、承認されました。 Amei News Vol.14においては、GENERAL MIDI Level Mobile(GMM)として報告させて頂きましたが、MMA投票の結果、GENERAL MIDI "LITE"(GML)と変更いたしました。このガイドライン使用にあたり、各社で保有する知的財産権の実施や使用が不可欠になる場合、無償あるいは、適切な条件でこのガイドラインを使用する他の者に非排他的かつ公平に実施や使用を許諾することの同意について、誓約書の提出が必要です。(詳細は、MIDI規格委員会モバイルMIDIワーキンググループまたは事務局までお問合せください)





# プロジェクト・リーダー インタビュー 「1394プロジェクト」



○ 1: プロジェクトの概要とその意味をお聞かせ下さい。

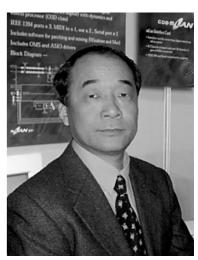
当プロジェクトの前身は、MIDI規格委員会の下で一昨年末まで精力的に活動していた「MPWG(Music Protocol Working Group)」です。そこでは特にIEEE(アイ・トリプルイー)1394という、これからの世界標準だと目されている汎用的で高機能な機器間インタフェース技術への対応を一つの重要テーマとして検討しておりました。IEEE1394と言っても、標準化されている部分は言わば「どのようなデータでも1本のケーブルで同時に流せる高速でインテリでシェントな通信手段ができました。 ジェントな通信手段ができました」、というような 信号インタフェースの基礎的な枠組み部分だけです 独立組織としたものです。

02: 活動の目標と現状をお聞かせ下さい。

プロジェクト・リーダーとしての抱負をお聞かせ下さい。 Q3:

▲3: やや時間が掛かりましたが、ここへ来てようやく 我々の業界でも製品化が始まろうとしています。従 来非常に難しかった本格的なネットワーク化や、オ ーディオデータなど他の形態のデータとの同期使 用、多チャンネル同時伝送などが、たった1本の細 いケーブルによる接続で実現できるようになること は、インフラとしては非常に画期的なことだと思っ

ています。 我々として 先ずは楽 音響機器 など音の世界 での1394によ るネットワー ク化を目指し でいます。タオルでは、アルンではないでは、アルン 従来無いよう な機器の利用 方法や、逆に新しい形態や コンセプトの 機器が生まれ るら、新たな地でない。 の新たな地でない。 なが開けている。



プロジェクトリーダー 鈴木健司

線が開けてくるとも密かに期待しているのです。またIEE1394は元来ボーダーレスが大きな利点ですから、業界を越えて画像、映像やPCデータをやりとりする日著作者でしょう。そのためにはコンテンツの著作権管理等の流通メカニズムなど、一段と複雑な仕組みの実装が必要で、課題も多いわけですが、いずいはシームレスに利用できる環境になる正とと思います。これような高品体系の破壊であったり脅威でもあるによっなような高品体系のであったり脅威でもあるが、です。ここでは積極的に攻めていくことのほうが、企業間の利害を超えて業界全体としてもベターだというような感覚で私自身は捉えています。

○ 4: このプロジェクトの今後の展望をお聞かせ下さい。

このプロジェクトの今後の展望をお聞かせ下さい。 プロジェクトには楽器メーカー、音響機器メーカー中心に現在10数社が熱心に参加しています。いよいよ商品化フェーズに入るなかで、今後AMEIメンバーの結束はもとより、1394の標準化に関しては、世界的な標準化組織である1394TA(Trade Association)がありますし、AES(Audio Engineering Society)などの関連組織との整合もタフな仕事になってきます。また当然ながらMMA(MIDI Manufacturers Association)との連携も従来に増して推進していかなければなりません。技術革新の活きプローチが益々速まの目がみれるようなより適切なアではよりたいうちにはの目がみれるようなより適切なアフローチを今後とも考えなければならないと思います。その意味で本当に今年が勝負の年と思います。その意味で本当に今年が勝負の年と思います。その意味で本当に今年が勝負の年と思います。

最後に一言お願いします。 Q5:

□ 5: 最後に一言お願いします。
□ 5: 毎年のようにデジタルミュージックフェア会場では AMEIブースの一角で1394をテーマに技術展苦が おるのですが、その割に地味で難解だという技術ではなかったかと思います。インタフェチン等がではなかったかと思います。インタフェチン等がではなかったかと思います。カのは、ご当たりながもできないもののようなのようによったないもののようにですが、昨今のインターネットや携帯電話の隆盛を思えが、昨今のインターネットや携帯電話の隆盛を思変が、昨季がる"ということがガラリと突然のように変かってしまうことが大いにあるのです。今はAMEIの 狭い会議室で、あったが持っていますが、いつしか近い将来、これが大きく花咲くことをメンバー共々夢見ているのです。

・・・・・どうもありがとうございました。



### AMEI標準MIDIすかし推進プロジェクトよりの報告 MIDI標準電子透かし「MIDI Sign」と「ISMC規格」構想



1. すかし推進プロジェクト発足までの経緯

AMEI著作権委員会におきましては1995年AMEIの社団化に伴い、それまで別名 称にて活動していたグループをプロテクト部会とし、並行して技術的な評価と研究を 行うプロテクトワーキンググループ(PTWG)もスタート致しました。PTWGメンバー各 位の情熱と献身的なご協力のおかげで1999年8月に電子透かしの埋め込み/読み出し 技術の公募を実施し、さらにソフト部会(当時マルトメディア部会)の皆様のご協力を戴いて 透かし埋め込み済みMIDげータの音質評価もおこない、翌2000年1月にはAME標準電 Tをがし方式MIDI Sign間標登録中が分末代を即芸&PI WGとして各中致しました。それを受けてAMEI全体のテーマとすべく同年3、5月の理事会並びに総会で、各委員会を横断的にまたがるチームとして「すかし推進プロジェクト」の設置が承認され、同年7月5日に第一回のプロジェクトミーティングが開催されました。部会・PTWG時代の情熱はさらに強く継承され、2001年3月5日の第10回ミーティングに至るまでMailing Listも併用して精力的な活動を続けております。

### 2. 抑止効果としてのMIDI電子透かし「MIDI Sign」

AMEIの役割は音楽電子市場の健全な発展であり、当プロジェクトの役割は次のような社会環境を整備することと考えております。

1)楽曲の権利者(作曲者、編曲者、音楽出版社)が、自分の作品を安心してMIDIデータ製作者に許諾できる環境。



透かし推進プロジェクトリーダー

タ製作者に評話できる環境。
2)MIDIデータの製作者や流通事業者が、安心してそれを市場に流せるような環境。この2点を満たすためには違法な複製を技術的に不可能とさせる「コピー防止技術」と、違法行為をしても必ず後で見つかって罰せられるので行為自体をあきらめさせる、つまり人間の心理に働きかける「抑止効果を引き出す技術と社会的なしくみ」の両方が必要です。ネットビジネスのインフラが整備されつつある現在、コピー防止技術は世界の様々な技術会社から提供されておりAMEIとして標準を規定する必要はありません。プロジェクトが推進すべき部分はMIDIデータを基盤とするあらゆるビジネスにおいて「抑止効果を引き出すシステム」の機能できな。そのコアトなるのが「MIDI Sign」と「ISMC相格」です。 システム」の構築であり、そのコアとなるのが「MIDI Sign」と「ISMC規格」です。

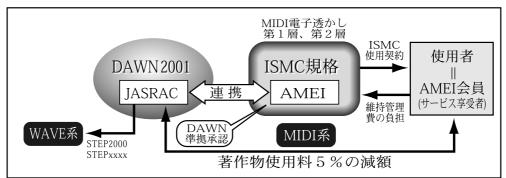
3. ISMC番号を電子透かしとしてMIDIデータに埋め込む ISMC(仮称)は世界中のMIDIマスターデータを一元管理するために、ISRC(レコード業界の原盤管理規格)やISWC(著作物管理の世界規格)を研究してプロジェクトが考案した規格で、International Standard MIDI Codeの頭文字をとったものです。コンテンツ事業を行う会員企業が製作したMIDIマスターデータには、ISMC規格に則った世界で唯一の番号がAMELより付与されます。この番号がデータの「権利管理情報」となり、MIDI Signによって電子透かしとしてデータに埋め込まれます。もしも不審なデータがあればAMEは電子透かし=ISMC番号を抽出し解析することでデータの出自と許諾関係を確認し、違法かどうかを判断できます。また訴訟となれば電子透かしは違法行為を立証する重要な証拠ともなります。

### 4. AME標準MIDI電子透かし方式「MIDI Sign」とISMCの特徴

MIDI Signの特筆すべき部分は階層構造を持っている点です。つまり会員各社が既に開発したMIDI電子透かしとMIDI Signとを2重にかけることができるので次のようなメリットがあります。

- 1)MIDI Sign=第1層にISMC番号を透かしとして埋め込めば第2層=各社透かしに固有の特殊情報を埋め込むことができる。
  2)2重に透かしを埋め込むことで悪意のある解析者からの攻撃に耐久性が高まる。
  3)コストや音質などビジネスの目的に沿ったものを第2層の方式として選択できる。
  4)これから開発・改良されるであろう新しい技術を第2層として常に利用できる。

これらのメリットを生かすためにMIDI Signは軽く、そしてISMC番号はきわめて小さなデータ量となっています。この番号は権利管理情報や第2層の透かし方式の特定をISMC規格によって凝縮した数字の羅列ですので、解読には管理テーブルが必要です。プロジェクト主導でデータベースを構築し、維持運営の管理費を会員に今後ご負担戴くこととなりますが、違法行 為者には業界を代表してAMEが警告を発しさらにJASRACとも連携をとっていきますので会員は充分なメリットを享受でき ると思います。



### 5. 今後の展望

今年になってからプロジェクトは強烈な追い風に煽られています。 2 月下旬にJASRACに打診し、ISMCの仕組みがネットワーク使用料減額の条件を満たしているとを確認しました。昨年のSTEP2000評価プログラムでもMIDIの電子透かしは対象となっておらず、JASRACのDAWN構想に準拠しているMIDI透かしの第一号がAMEIのMIDI Signです。著作権者と著作隣接権者の違いはあっても、JASRACもAMEIも目指しているところは同じであり、今後実務レベルでの連携強化についてもJASRACと話し合っています。解決すべき課題はまだまだありますが、できる限り早く会員の皆様にMIDI SignとISMC規格をご利用設けるようメンバーー表となってがんばります。これからも皆様のご理解とご協力、そしてプロジェクトへの参加をよるLAと問題の由しながます。 をよろしくお願い申しあげます。



### 会員名簿(五十音順)

### あ

アークテック株式会社 株式会社アイ・オー・デ 株式会社アイシックス ータ機器 株式会社アイデックス アイワ株式会社 アカイプロフェッショナルエムアイ株式会社 

### (1

株式会社石橋楽器店 株式会社インターネット インフォコム株式会社

### え

株式会社エクシング 株式会社工ム研 株式会社エムゾーン

### お

沖電気工業株式会社 株式会社音響総合研究所

カシオ計算機株式会社 カモンミュージック株式会社 株式会社河合楽器製作所

ギガネットワークス株式会社 株式会社キューブ

クラリオンソフト株式会社

### J

株式会社コナミコンピュータエンターテインメント東京 株式会社コルグコロムビア音響工業株式会社

株式会社サンワード

### し

株式会社シーティーエー 株式会社シーミュージック ジェイフォン東日本株式会社 島村楽器株式会社 シャープ株式会社 株式会社JEUGIA 学校法人 尚美学園

### す

株式会社ズーム 株式会社鈴木楽器製作所

### t

セイコーインスツルメンツ株式会社 株式会社セガ・ミュージック・ネットワークス

ソニー株式会社

### た

株式会社第一興商 株式会社タイカン 株式会社タイトー 大日本印刷株式会社 株式会社タムラ製作所

### つ

株式会社ツーカーセルラー東京

ティアック株式会社 TDK株式会社 株式会社電波新聞社

東映ビデオ株式会社 東京サウンド株式会社

### ΙΞ

株式会社日光堂 体式会社コルギ ニフティ株式会社 学校法人日本工学院専門学校 日本コロムビア株式会社 日本シンセサイザープログラマー協会 日本電気株式会社 学校法人電子学園日本電子専門学校 日本ビクター株式会社

### は

パイオニア株式会社

### ሪኦ

株式会社 P F U 株式会社 ビーエムビー・ドットコム ビクターテクニクスミュージック株式会社 ビクターレジャーシステム株式会社

### ふ

株式会社フェイス ブォステクス株式会社 不二音響株式会社 富士通株式会社 株式会社プリマ楽器

### ま

松下通信工業株式会社 松下電器産業株式会社 松下電工株式会社

### み

三木楽器株式会社 

### め

株式会社メガフュージョン

### も

株式会社モリダイラ楽器

株式会社山野楽器 ヤマ八株式会社 インスペスペート 財団法人ヤマハ音楽振興会 ヤマハミュージックトレーディング株式会社 株式会社ヤマハミュージックメディア

### ゆ

株式会社有線ブロードネットワークス

### 6

株式会社ラグナヒルズ

### IJ

株式会社リットーミュージック 株式会社リムショット

ローム株式会社 ローランド株式会社

### ゎ

株式会社ワキタ

以上、会員会社89社

賛助会員 株式会社大阪村上楽器 株式会社日本経済新聞社 有限会社博秀工芸 株式会社ミュージックトレード社 有限会社ミュレイディア 有限会社ミュレイディア 株式会社ラプラス 以上、賛助会社6社



## MIDI検定ガイドブック・及び参考書



MIDI検定試験3級 ブック2000年版 <sub>定価 **2,000**円+株</sub>



MIDI検定試験2級 公式ガイドブック2000年版 定価 **3,800**円+税



MIDI検定2級実技 公式ガイドブック「ミュージックメディア 実務ノウハウ |



MIDI1.0 規格書日本語版